

### 3 避難するために大切なこと

# いのちを守るため前もって避難する場所や道順を確認しておく。

ここでの  
学習の目標

- ・避難場所を確認する方法を理解する
- ・避難場所へ安全に行くための注意点を知る

では、危ない場所から逃げるために必要なことは何でしょうか。

それは、前もって避難する場所や安全に避難するための道順を確認しておくことです。

## ●避難場所を確認しておく

みんなが住んでいるまちには、いろいろなところに避難場所があります。どこが避難場所になっているかを、自分たちで確認しよう。

### 確認する方法

#### ①市や町、県のホームページ

市や町、県のホームページ内で「避難場所」と入力して調べてみよう。



長崎県のホームページ

#### ②ハザードマップ(※)

ハザードマップには、避難場所も書いてあります。



諫早市のハザードマップ

※大雨や津波などによる被害をあらかじめ予想し、被害の範囲などを地図で示したものです。

#### ③市や町の担当者に聞く

直接、市役所や町役場に行くか、電話をかけて質問すれば教えてもらえます。



## ●避難するルートを決めておく

避難場所を確認したら、そこに行くためのルートを決めよう。

ポイントは、どこを通れば安全に、そして確実にたどりつけるか、だよ。

こんなところは  
危ないから、  
注意しよう

#### ■大雨・台風のとき

- ・水によくつかかる道路
- ・ふたがない側溝
- ・植木鉢が置かれたブロック塀
- ・くずれそうなガケ など

#### ■地震・津波のとき

- ・たおれてきそうな塀
- ・くずれそうなガケ
- ・ガラス窓のビルの下
- ・低い土地

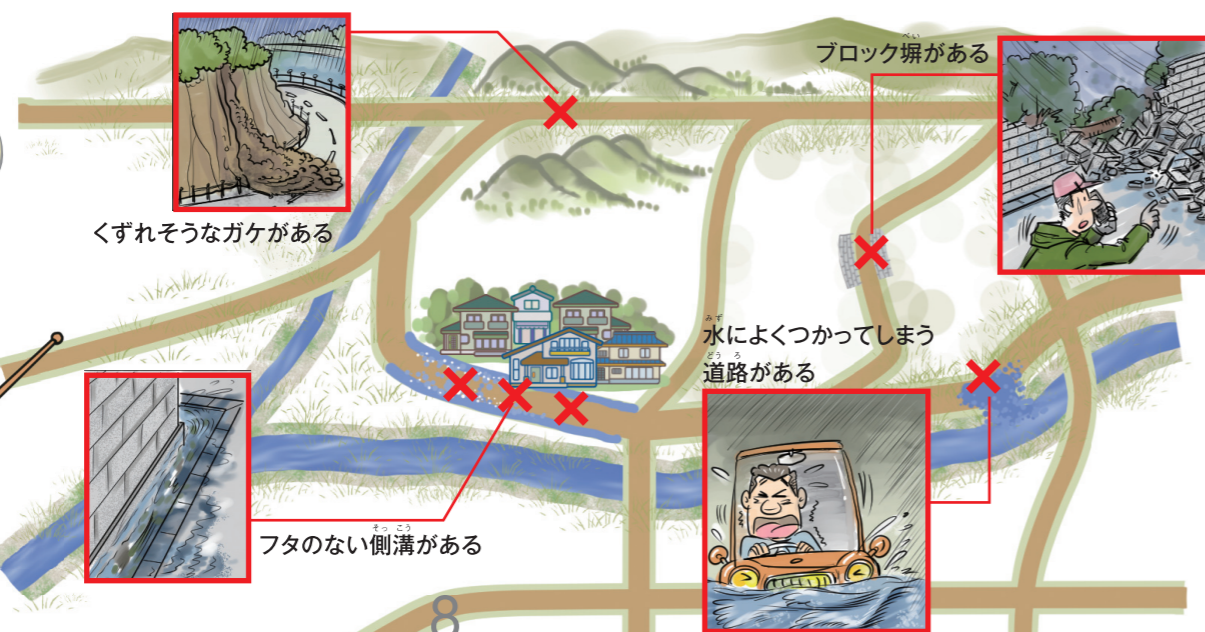
#### ■日頃から気をつける場所

- ・あぶない交差点
- ・せまい道路

長崎県内には約2万もの土砂災害危険箇所があるから、とくにがけくずれは要注意だよ。



避難場所に行くためのルートはいっぱいあるから、どのルートがいちばん安全なのかをしっかりと考えて決めよう。



### 注意

### ポイント

## 避難しているときに、大変な事故がおこったこともあります。

平成21年8月、兵庫県では大雨のため川があふれて、安全な避難場所へ逃げる途中、まちがっで道路横の水路に落ちて、6人が死んでしまうという悲しい事故がおきました。

写真：気象災害画像データベース作成委員会提供



事故がおこった水路は、普段は水の量も少なく、あやまって落ちるような場所ではありません。

(※写真はCG加工したものです)



事故がおきたときは、どこが道路か水路なのか、わからない状況でした。

(※写真はCG加工したものです)

## ●水につかった道路を通るときは、こんなことに気をつけよう

水がなく、道路のようすがよくわかる普段の道路を逃げる場合と違い、注意しないと危険なことがたくさんあります。



#### ■はきものは運動靴

長靴は、水かさの深さと水が入って歩きにくくなるため、運動靴が最適です。



#### ■カサや棒で前を確認して

水の中にある危険を、カサや棒などで確かめながら注意して進みましょう。



#### ■水深はヒザの高さまで

歩ける水の深さはヒザの高さまでが限度。流れが速いと20cmの深さでも危険です。

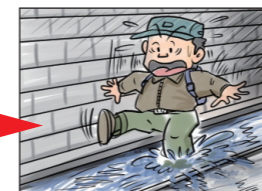
#### ■みんながロープでつながって

水に流されてはくれないように、子供やお年寄りにはロープなどでつながり避難しよう。



## ●知っていますか、大雨のときは、こんな場所にも思わぬ危険が!

「エッ、こんな場所が」と思うところにも危険が!



道路横の溝などは、水の流れが早くなり危険です。



川の上流では水かさの変化が激しく、中州に取り残される場合があります。



ガケの近くは、水分をふくんだ土砂がくずれ落ちる危険があります。



水かさが増した川にかかる橋は、とても危険です。

地下は、とくに危ないから注意して!



地上が水につかると、地下室へも水が流れ込んできます。



地下が水につかると、電灯が消え、エレベーターも使えません。



水につかった地下では、水圧でドアが開かなくなります。



喚起口や明り取りの窓など、思わぬ場所から水が流れ込んできます。